

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
解表剤 扶正解表剤 2		
<p>けいぼうはいどくさん 荊防敗毒散</p> <p>撰生衆妙方</p>	<p>発汗解表・消瘡止痛</p> <p>主治は、瘡傷の初期で局所が発赤、腫脹し、悪寒、発熱、無汗、口渴がない、舌苔は薄白、脈は浮数などを伴うもの。 敗毒散は発散風寒、疏導経絡、行気活血の効能を持つので、風寒湿邪が肌腠に鬱したために発赤、腫脹を伴う皮疹、瘡傷（皮膚化膿症）が生じる状況で、化膿する前の悪寒、発熱、無汗、頭頂部の強いこわばり痛み、四肢や軀幹のだるいしびれ痛みを呈するときに有効である。 本方（荊防敗毒散）は、風寒湿の表証に対する代表処方で、悪寒、頭痛、しびれ痛みが目標である。 本方（荊防敗毒散）は、敗毒散の人参・生姜・薄荷を除き、荊芥・防風を加えたもので、肌腠を開き風寒を去る効能を強めている。 本方（荊防敗毒散）は、体力のある人の風寒湿表証、および瘡瘍の初期の悪寒、発熱、無汗の状態に適する。</p>	<p>柴胡・川芎・枳殻・羌活・独活・茯苓・桔梗・荊芥・防風各5g・甘草3g 水煎して服用する。</p>
<p>ぎんぎょうはいどくさん 銀翹敗毒散</p> <p>医方集解</p>	<p>祛風解表・清熱解毒</p> <p>主治は、風熱毒による癰瘡(皮膚化膿症)初期の発赤、腫脹、熱感、疼痛。 荊防敗毒散の荊芥・防風に代えて、散風解毒の金銀花・連翹を加えたもので、熱毒が熾盛になる前に散熱解毒する。</p>	<p>敗毒散から人参を除き、金銀花・連翹各10gを加える。 水煎して服用する。 [荊防敗毒散－(荊芥・防風)＋(金銀花・連翹)]に相当する。</p>
<p>じゅうみはいどくさん 十味敗毒散</p> <p>華岡青洲方</p>	<p>発汗解表・消瘡止痛</p> <p>風寒湿邪の化熱で生じた風湿熱の炎症、化膿傾向をもつ皮疹・瘡傷（皮膚化膿症）が生じる前の初期に用いる。 蕁麻疹の場合は、赤く隆起してかゆみがあり、繰り返して生じる湿疹の場合は化膿しやすく、発赤やかゆみがあり、分泌物が少ないものに用いる。 本方（十味敗毒散）は、荊防敗毒散の加減方で、羌活・枳殻の代わりに桜皮（あるいは樸椒）・生姜が用いられているだけで、方意においては変わらない。荊防敗毒散と同様に用いる。 日本での保険適応効能、効果 化膿性皮膚疾患、急性皮膚疾患、じんましん、急性湿疹、水虫</p>	<p>柴胡・川芎・独活・茯苓・桔梗・防風・桜皮（あるいは樸椒）各3g・荊芥2g・甘草・生姜各1g 水煎し服用する。 [荊防敗毒散－(羌活・枳殻)＋(桜皮（あるいは樸椒）・生姜)]に相当する。</p>